

仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所
980 仙台市本町一丁目2番12号
電話〇二二二一22一七三七一番
編集・発行人 首藤 正義

“しいたげられし者”との連帯

― 指紋押捺問題 ―

昨年、日本カトリック司教団は「日本の教会の基本方針と優先課題」を発表して、すでに一年が過ぎた。そして、一九八五年も過ぎようとしている今、社会との接点で、教会は福音の担い手として、どのようなことを実践して来ただろうか。

基本方針は、「今日の日本の社会や文化の

中にすでにある福音的芽生え」を認めつつ、「多くの人々を弱い立場に追いやり、抑圧、差別している現実もある」ことを訴えている。そして、「小さな人々」と共に、キリストの力で福音的芽生えを育て、すべての人を大切にす社会と文化に変革する福音の担い手となることがカトリック教会の基本であると言

主のご降誕

おめでとうございます。



遠く地の果てまで
すべてのものが
神の救いを見た

新しい歌を
神にうたえ
世界よ神に向かつて
喜びうたえ

神の名をたたえて歌い
日ごとに救いを
告げ知らせよ

(詩編96)



言した。

今、それはどんな深さ、広がりにおいて実践されているだろうか。

指紋押捺の件で孤独な闘いをしてきた村首ステファノ師の行動を教会はどのように受けとめているのだろうか。

「福音の担い手」はキリスト・イエズスがそうであったように、迫り来る十字架をもその身に引き受ける者である。

「在留許可3か月」との言いわたしの前に、今、村首師は窮地に立たされている。「悪法も法である」「日本は法治国家であるから、法に従って行動すべきだ」との常套句によつて、また無関心という冷たい風によつて、その十字架を増々重くしている。法改正のため、何の権利も持たない者が自らを守る唯一の手段は不服従という道しかないのである。ひとは、何のための不服従かを考えることなく、「イヤなら国へ帰ればいい」という心ない言葉を簡単にあげつけ、ますますひとの心を傷つけ、差別を温存させてしまっている。

指紋押捺制度はその奥底に「差別」の根が潜んでいる。「すべての人を大切にす社会と文化に変革する福音の担い手」としての教会を自覚するならば、教会は、「指紋押捺問題」にもつと目を向ける必要がある。また、私たち自身の無知故に、社会の中の差別を増々増長させていることにも気づく必要がある。

国外退去の危機にさらされている村首師のことを含め、社会のなかで、もつと発言と行動を。

△仙台教区レベル▽仙台教区青年の集いが11月22日から24日まで東仙台光ヶ丘研修所で開かれた。速くは会津若松・青森の各地から58人の青年が集まった。今回は各修道会にも呼びかけ、5人の若いシスターが参加し、青年との親しい出会いの時を持った。

「いま信仰を生きるとは」のテーマでアントン・ツィゲル師の2回の講話があった。第一講話「信仰に生きる」とは、信じるとは誰かを信用し誰かに自分を委ねることであるから、「わたくしにとつてキリストはどういう方か」の問いが出され、キリストを知る大切さが語られた。第二講話「いま信仰を生きること」で、現代世界に生きる私たちにとつてイエズスの、「生命を

青年の集い 開かる

救うことと殺すことと、どちらが律法にかなっているか（マルコ3の4）ということばは何を意味するか、の問いが出され、一人ひとり、何ができるか、何をしなければならぬかを考えさせられた。

尚、集いの最終日、教区大会のことが話され、青年部会を設けるための準備委員を決めた。（藤田 亮）

地区レベル

去る11月10日、福島県の青年の集いが郡山教会で開かれ、男女40人が集まった。佐々木博師の指導の下、「出会いー神と自分と友とー」

小林有方司教様の新住所

小林司教様は、11月10日午後1時40分（都合で20分おくれ）発、雨模様の中仙台空港から数人の司祭・修道者・信徒に見送られて、新住所に発たれた。空港では、いつにかわらぬにこやかなご様子で、一人一人に握手の手をのべる司教様、数人ずつ集めては写真にお入りになる司教様、皆と輪になつて「また会う日まで」をうたい出される司教様であった。

新住所は次の通り。
520 大津市比叡平三丁目五番六号

小林 有方
Tel 〇七七五―29―〇〇六三

大湊カトリック幼稚園新築落成

―創立30周年記念―

師走を迎えた12月1日(日)、大湊カトリック幼稚園の新築落成が祝われた。

本園は昭和30年、ケベック外国宣教会が、むつ市大湊に聖母幼稚園を設置し、今年で満30年を迎えた。幼稚園の開園後まもなくして、昭和32年から21年間、聖母被昇天会が下北地方の布教活動と幼児教育にたずさわった。

今回の園舎全面改築は、創立30周年記念事業として行なわれた。鉄筋コンクリート造り2階建、延床面積一三五〇平方メートル、建築面積一一〇〇平方メートル。

をテーマに、自分という殻、自分たちの教会という様々な枠から一歩出て、新しい出会いを見い出そうというものであった。

佐々木師の講話、グループによる分かち合い、そして一人になつての味わい、を通じて少しづつ心が開かれた。

ミサ中の平和のあいさつでは全員、感謝のうちに自由な形式で行なわれ、皆が兄弟であることが感じられた。

私たちが一人ひとりに働きかけ、一つ

に集めてくれた主に感謝し、各教会の青年がこの集いで出会えたことにより、今後いろいろな形の交流が活発に行なわれることを期待したい。尚、この集いは、6月に福島県下の青年有志が集まり、準備する中で今回の集いとなつた。（金子 力）

佐藤司教様の日程

(12月9日現在)

- 12月25日 降誕祭(元寺小路)
- 1月1日 新年の平和ミサ(元寺小路)
- 7日 カリタス・ジャパン 仕事始(東京)
- 12日 修道名のお祝(元寺小路)
- 13日 教区司祭団役員会(仙台)
- 14~15日 教区カテキスタ研修会(一関)
- 16日 カリタス・ジャパン(東京)
- 19日 墓地委員会合(仙台)
- 21日 カリタス・ジャパン(東京)
- 1月22日 2月1日 VISA7・アジアン ワークショップ(東南アジア)
- 2月2日 一関マリア院落成式



192センチからの日本の眺め(3)

また、押捺か

村首ステファノ

教会内で強く感じられることは、「法律法律法律は守るべきだ。神父が国の法律を守らないならば応援できない。悪い法律であつても法律であるから守るべきだ」。

この点について考えてみたい。余り面白い話題ではないが、大事なことだと思ふ。

「法律を守るべきだ。日本は法治国家であるから」。これは根本的な姿勢として私は非常に尊敬するし、私もその通りだと思ふ。皆が法律に従つて生活するのはお互いの権利と義務を尊重し合う上で大切なことである。どの国でも先進国では一般的なことである。

日本人は法律を重んじる国民である。これは非常に結構なことである。ただ、それだけでいいのだろうか？

このことについて二つのことを考えたい。まず、法律とはどんなものか。法律は聖なるものではない。人間社会の中で、問題にぶつかれば何かを決めなければならぬ。決めるのは人間である。具体的には法律を決めるのは議員さんである。議員さんは皆が聖人であるわけでもない。それならば間違ふこともある。そのことは最初からわかっているから法改正・廃止ということが、法律を作るときにすでに考えられている。従つて、間違つた法律を作る可能性があるから、「法律だから守るべきだ」と私には思えない。

例えば、「子供は親の言うことを聞くべきだ」ということについて、皆賛成する。当然なことだと思ふ。そうでないと教育もできない。ただ例外もある。例えば、お父さんが17歳の息子に、「隣の家は金がありそうだから、盗んで来なさい」と言ったとする。子供は、「いけないことだ」と思い拒否する。もし盗みに入り、捕まつても、「お父さんの命令に従つたのだから良いことだ」とは、決して警察は言わない。むしろ、17歳になつたのだから善悪の判断がつくはずである、と言われる。次に、指紋押捺について考えたい。私は30年日本で生活し、法律を守つて来た。これからも守るつもりである。

ただ、指紋押捺は望ましい法律ではない、そういう法律に従うべきでないと思ふ。これは主観的な問題ではない。実際、多くの日本人・自治体・日弁連・カトリック教会なども、こういう法律は改正すべきだと考えている。国連の場でも人権委員会がとりあげ、指紋押捺制度が日本の法律にも違反している容疑があるとし、正式に取り調べ中である。そのような法律を守りなさいというのはオカシイことである。

キリスト者としても法律のことだけ言うのはおかしい。考えてみれば私たちは前科者・死刑囚の弟子である。イエス・キリストさえ警察の世話になつた。日本の殉教者たちも皆犯罪者として扱われた。彼らはその当時の法律に反したのである。良い法律でないならばこれからも反対していかなければならない。

神様と私

盛岡白百合学園
小六年 黒沼 由佳子

私は、幼稚園のころから神様を知っていた。

神様は、私を助けてくれた。

神様は私をすてなかつた。

神様が私をすてなかつたから私も神様をすてなかつた。

いろんな時に……

小学校にはいると、

もつと神様の力を知つた。

悲しい時、私をはげました。

苦しい時、私を苦しみから救つた。

反対に、

楽しい時、私といっしょに

楽しんでくれた。

うれしい時、私といっしょに

喜んでくれた。

神様はいつも

私の身のまわりについて、

はげましてくれるのだ。

だから、悪いことをして

みんなにわからぬようにしていても

神様には、わかっています。

私は、こんなすてきな神様に見守られて

毎日をごしてている。

中学校へ行つても、高校に行つても、

大人になつても

神様は、わすれられない。



「あなた

救われていますか？」

「あなた救われていますか!!」

とつさの質問に私は一瞬、度肝を抜かれ、息をのみました。ようやく我に返った私は、しどろもどろになりながら小さな声で、

「そりゃ、洗礼を受けて神さまの子供になつたから：：」と、辛うじて答える私に、彼女はなおも浴びせかけるように、「そうではなくて、実感として救いを体験していますか？」と迫りました。

今から約十年前、ある新教の若い女性から受けた痛烈な質問でした。

私にとって一体信仰とは何だったのでしょうか。 「救われていますか？」という質問に胸を張って「ハイ、もちろん救われていますよ」。神さまの子供にして頂いて、こんなに大きな喜びに満たされて生きているのですから」と言えなかつた私でした。

あれから十年経つた今、ようやく私は神様

によつて生かされていること、宇宙万物を造られた天の御父をお父さまとお呼び出来る子の霊を頂いたこと、私の中に主が生きていて下さること、これらの幸せを実感として味わう喜びを頂きました。

何と大きなお恵みでしょうか!!

神さま(お父さま)なしでは生きて行けない私に変えて頂きました。丁度、空気がなくては生きて行けないように：：。弱い惨めな月足らずの私にも兄弟姉妹と共に、天の御父を賛美し感謝する喜び、祈る喜びを与えて下さいました。そして、祈りは必ず(どんな小さなことでも)きき入れられる確信も頂きました。また、主のみことば(聖書)を聞き学ぶことによつて、ますます深く主の愛を知らせて頂きました。

十年前の私は全くの日曜信者で、聖書を手取ることもさえしませんでしたの：：。パウロは、「信仰は聞くことから始まる。聞くとはキリストについてのことばを聞くこと」(ロマ書)と言います。聖書の中から主の愛を深く知らせて頂いて兄弟姉妹たちと分かち合い、更に主を知らない兄弟姉妹たちとも分かち合いたいと思つています。(小さき羊)

年末年始のお休みー教区事務所

教区事務所では、左の通り休業させていただきます。ご了承ください。

昭和60年12月30日(月)～昭和61年1月4日(出)

(但し、緊急の用事は司教館にご連絡下さい。)

0222-19713030

元寺小路教会では!!

★聖書勉強のテープ販売

元寺小路教会では、5月から12月まで、7回にわたつて聖書研究会を開いた。講師は、東京教区の兩宮慧神父。「預言者に見るいつくしみの神と義の神」が主題。多くの人には新しく興味をそそる話に、平均出席者数百十名を数えた。

そこで、他教会の方々にも聖書勉強の糧として利用できるように、次の要領でお分けます。申し込みは元寺小路教会まで。

テープ7本(送料込み)7千円。
★デザインシュガーづくりと販売

★デザインシュガーづくりと販売

新聖堂建設を計画している元寺小路教会では、婦人会がデザインシュガーづくりと販売を通して聖堂建設のために働いている。この程、婦人会から聖堂建設委員会に百万円の収益金の寄贈があつた。今回は2回目であり、会員は次の寄贈に向けて、デザインシュガーづくりと販売に意欲を燃やしている。そして今後も多くの方の利用を願っている。慶弔、贈答、バザー等、ユニークなものとして使いたい方がある。ご一考の程を。

【編集後記】

毎月の教区報発刊に追われあつという間の一年であつた。月初めには読者の手に教区報を、との年頭の願いにもかかわらず、12月号が読者の皆様の手にとどくのは、もしかしたら、一月になるかも。「発行日に偽りあり」のことばをかえりみず12月号をお届けします。この一年に感謝。

司教座移転50周年記念

仙台教区大会

メインテーマ

「明日の教会を
めざして」

期日：昭和61年9月14日(日)・15日(月)

場所：仙台白百合学園


